

## 平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月 公益社団法人日本グライダークラブの記録



クラブホームページ [www.glider.jp](http://www.glider.jp)

### 公益社団法人日本グライダークラブ定款より

#### (目 的)

第 3 条 本クラブは、青少年を始め、大空に憧れを抱く者に対し、体験搭乗及び操縦・整備技術などの指導・教育を通し、航空知識の普及とこれらの伝承を行うと共に国際交流を行い、グライダースポーツ文化の向上・振興を図り、もってわが国グライダー界の発展に資することを目的とする。

#### (事 業)

第 4 条 本クラブは、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) グライダーの啓蒙・啓発・普及に関する事業
- (2) グライダー及び曳航機の操縦技術の向上及びその指導者の養成
- (3) グライダーの操縦技術、整備技術等、及び安全運行・事故防止対策に関する研究並びにその施策
- (4) グライダー及び関係する装備・計器などの設計・制作・整備・修理・改造
- (5) この事業に必要な機材、施設、設備などの整備、及び人材の養成
- (6) その他本クラブの目的を達成するために必要な事業

# *Club Operation in 2012 Apr. ~2013 Mar.*



# 平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月 公益社団法人日本グライダークラブ事業報告書

平成 25 年 4 月 1 日  
公益社団法人日本グライダークラブ  
理事長 吉田 正



当クラブは平成 24 年 1 月 13 日付けで、公益法人認定委員会から公益法人の認定を受けることが出来ました。公益社団法人日本グライダークラブは、国土交通省所管のもと、航空の安全の促進と発展を目的として設立された社団法人です。当クラブでは定款に掲げる理念に基づき、平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月期は下記の通り、公益事業をはじめとした様々な活動を実施しました。平成 25 年度も引き続き公益事業を積極的に推進する所存ですので、クラブの活動と運営に皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

## A. 公益目的事業 1(グライダーの操縦・整備技術の研究・伝承と指導者の養成)

### I. グライダー普及のための体験搭乗会

	<p>「グライダー体験搭乗」</p> <p>期 間 :平成 24 年 4 月から平成 25 年 3 月の各 週末・祭日 主 催 : (公益社団法人)日本グライダークラブ 参加人数 :74 名 概 要 :日本グライダークラブのホームページなどを見て来場した体験搭乗希望者に対して、1 日につき 1～6 名の体験搭乗を行い、グライダーおよびクラブの活動への理解を深めた。</p>
	<p>「グライダー教室の開催」</p> <p>期 間 :平成 24 年 10 月の各週末 主 催 : (公益社団法人)日本グライダークラブ 参加人数 : 板倉町在住・在勤者 10 名 概 要 : 地域との交流、協調を目的として町の広報を通じて体験搭乗者を募集し、1 日につき 1～3 名の体験搭乗を行って、グライダーおよび当クラブの活動への理解を深めた。</p>

### II. グライダー・モーターグライダー操縦士の育成



	<p>「グライダー操縦士の育成」</p> <p>期 間 :平成 24 年 3 月～平成 25 年 3 月の各週末、祭日 参加人数 :練習生 9 名 概 要 :グライダー技能証明取得のための学科および飛行について操縦教育を行った。</p>
	<p>「エアロバティック競技パイロットの養成」</p> <p>期 間 :平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月の各週末、祭日 参加人数 :パイロット 4 名 概 要 :世界選手権出場予定のパイロットの訓練を、曲技専用グライダー FOX を使用して行った。</p>

### Ⅲ. グライダーの普及ならびに飛行技術の向上を図るための講習会


	<p>「モーターグライダー受験準備コース」</p> <p>期 間 : 平成 24 年 5 月 7,8,11,14,15(計 5 日間)          参加人数 : インストラクター1 名、練習生 1 名          概 要 : グライダー・動力滑空機の学科試験・実地試験に必要な基礎知識の習得のための座学を行った。</p>
	<p>「指定養成コース」 第 4 期 (平成 23 年度)</p> <p>期 間 : 平成 24 年 7 月 14 日~7 月 29 日 (8 日間)          参加人数 : 指定養成施設入所者 2 名          概 要 : 指定養成施設が開催され、1 名が自家用滑空機上級技能証明の審査に合格した</p>
	<p>「ウエーブフライト講習会」</p> <p>期 間 : 平成 24 年 11 月 24 日          参加人数 : 30 名          概 要 : マウンテンウエーブを利用した滑空機のクロスカントリーの理解を深める目的で、板倉滑空場を中心とした関東平野から東北、北海道への飛行の解説を実施した。</p>
	<p>「ベーシックアクロ講習会」</p> <p>期 間 : 座学 平成 24 年 9 月 15 日および 10 月 13 日          実地 平成 24 年 9 月~12 月 随時          参加人数 : 合計で 14 名          概 要 : 座学修了者を対象に、FOX を使用してベーシックアクロ課目の実地訓練を行った。</p>
	<p>整備コース 3「二等運航整備士受験準備」</p> <p>期 間 : 平成 24 年 6 月および 8 月          参加人数 : インストラクター1 名、受講者 3 名          概 要 : 後日、実地試験を受験し 3 名とも合格した。</p>
	<p>整備コース 2「二運整から二等航空整備士整(上滑)への限定変更」</p> <p>期 間 : 平成 24 年 4 月 適宜 6 日間          参加人数 : インストラクター1 名、受講者 2 名          概 要 : 過去に当クラブの講習会に参加し、二等運航整備士に合格した人に、二等航空整備士(上滑)へのステップアップ講習を実施した。後日、2 名とも実地試験に合格した。</p>
	<p>整備コース 5「二整(上滑)から動滑への限定変更の受験準備」</p> <p>期 間 : 平成 24 年年 11 月 適宜 6 日間          参加人数 : インストラクター1 名、受講者 2 名          概 要 : 過去に当クラブの講習会に参加し、二運整、二整に合格した人に、動力滑空機へのステップアップ講習を実施した。後日、2 名とも実地試験に合格した</p>

	<p>「AFRコース」(Annual Flight Review)</p> <p>期 間 : 平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月の各 週末、祭日          参加人数 : 板倉滑空場で機長として飛行する操縦者全員          概 要 : 板倉滑空場にて、機長として飛行するパイロットに対して、クラブ規定により1年一度義務付けられているAFRを、滑空機、動力滑空機、曳航機毎に実施した。</p>
	<p>「特定操縦技能審査コース」(Bi Annual Flight Review)</p> <p>期 間 : 平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月 週末、祭日          概 要 : 法制化された特定操縦技能審査(機長として飛行する操縦者は、2年に一度の受験が義務づけられる)の、クラブ内での実施態勢を構築し、7名が受験し合格した。平成25年度は機長として飛行する操縦者全員、AFRを兼ねて特定操縦技能審査を受験することとした。</p>


#### IV. 競技会の開催

	<p>第 2 回「OLC 藤倉記念チャリティーカップ」滑空競技会</p> <p>期 間 : 平成 23 年 10 月 12 日～平成 24 年 10 月 8 日          主 催 : (公益社団法人)日本グライダークラブ          参加人数 : 40 名          概 要 : 競技飛行の普及と滑翔技術の向上を目的として、全国のグライダー愛好者に呼びかけ、第 2 回 OLC (オンラインコンテスト) 藤倉記念チャリティーカップを開催した。</p>
	<p>平成 24 年度「板倉マンズリーコンペ」滑空競技会</p> <p>期 間 : 平成 23 年 10 月 11 日～平成 24 年 10 月 31 日          主 催 : (公益社団法人)日本グライダークラブ          参加人数 : 26 名          概 要 : グライダーの安全飛行のための基礎的な滑空気象の解析能力、および野外滑翔技術の向上を図る目的で、板倉滑空場をベースとして活動するグライダー愛好者を対象として、OLC を利用した競技会を開催した。</p>

#### V. グライダーの操縦技術、安全運航、事故防止対策に関する研究会、講演会、映画会などの開催

	<p>「ファーストエイド講習会」(普通救命講習会)</p> <p>期 間 : 平成 24 年 8 月 11 日          参加人数 : 15 名          概 要 : 救急手当・救急法・AEDの使用法の習得するための講習会を開催した</p>
---	--

#### VI. 調査研究事業

	<p>「VHF無線機の新型式の承認」</p> <p>日 時 : 平成25年2月21日          概 要 : 外国の型式検定に合格している、航空機に施設する新形式の無線設備の機器 (BECKER AR6201)の型式検定について、総務省より承認された。</p>
---	---

## B.公益目的事業 2(航空情報提供事業)

### 1. 板倉フライトサービスの運用



「飛行援助用航空局」板倉 FLIGHT SERVICE (130.675Mhz)

期 間 :平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月の運航日

概 要 :板倉滑空場付近の航空の安全を図るため、付近を飛来する航空機からの飛行情報の要求に、的確に応答できる態勢を整えた。

## C.クラブ組織の整備

1. 定款及び内部規定に従った公益事業執行体制により、業務遂行の充実を図ると共に、新たな業務システム、会員データベースの構築など、作業の効率化を目指した。

## D.その他クラブの目的に必要な事業

### 1. クラブ創立 60 周年および公益法人設立記念祝賀会の開催



「創立 60 周年および公益法人設立の記念祝賀会」

日 時 :平成 24 年 10 月 28 日

概 要 :表記賀会を日本橋マナダリンオリエンタル東京で開催した。クラブ員およびゲストを含め 77 名が出席した。

### 2. 騒音対策



「飛行規制区域の設定および飛行経路の変更」

概 要 :騒音対策のため、滑空場周辺に 4ヶ所の飛行規制空域を設定しその上空を避けて飛行することを取り決め、また時間帯によっては曳航離陸の方向を変更するなどの対策を講じている。新たに滑走路滑走路 15 エンド付近の騒音対策のため、滑走路 33 からの曳航経路を変更し、騒音軽減を計る処置を講じた。

### 3. 地域との交流



「渡良瀬バルーンレース・桜祭り」(栃木市主催)

期 間 :平成 24 年 4 月 7 日・8 日

概 要 :表記催しにクラブから機体展示およびグライダーとモーターグライダーの展示飛行を行った。

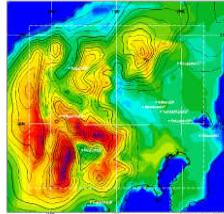


「渡良瀬遊水地フェスティバル」(栃木市主催)


期 間 :平成 24 年 9 月 2 日

概 要 :表記催しに、クラブから機体展示と、模型グライダー作製教室を開催した。


#### 4. 板倉事務所の充実

	<p>「板倉滑空場 事務所の充実」</p> <p>概要：インターネットを利用して気象情報の取得、解析する態勢の充実 クラブ員データベース、会計システムの整備活用を図った。</p>
---	---


#### 5. 滑空場の整備

	<p>「滑走路の整備、拡張、路面の平坦化」</p> <p>期間：平成 24 年 12 月 随時</p> <p>概要：渡良瀬河川事務所による堤防工事は昨年度末に終了したが、滑走路南側部分の路面平坦化が完成していないので、クラブ員有志により平坦化作業を行った。今後、安全に滑走路全長が使用できるように、さらに路面の整備を行っていく。</p>
---	--



#### 6. 若年層支援プログラムの定着拡大

	<p>「ラインボーイ制度」</p> <p>期間：平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月 週末・祭日</p> <p>参加人数：20 名</p> <p>概要：若年層支援プログラムの一環として、各大学航空部員および若手 OB を対象にラインボーイ制度を策定し、若年層が運航に参加することによりクラブに親しみ、卒業後に入会しやすくする方策を実施している。</p>
--	---

#### 7. 他団体合宿・練習受入

	<p>板倉滑空場で合宿・練習・体験搭乗会を行った諸団体 早稲田大学航空部 慶應義塾大学航空部 東京工業大学 OB 会 三田ソアリングクラブ FOX アクロチーム</p> <p>期間：平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月の 週末・祭日</p> <p>概要：上記団体の飛行活動について、運航支援を行い、航空スポーツの発展と普及に努めた。</p>
---	---

#### 8. 他団体・連絡会等の交流事業

	<p>日本および世界各地のグライダー関係団体との活発な交流</p> <p>概要：日本および世界各地(ドイツなど)の団体・会員と交流を深め、運航業務支援、知識・技術の共有、人材交流、79 条申請の相互協定、講習会・イベントの相互案内を促進する態勢を確立した。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 北関東航空連絡会(陸上自衛隊・北宇都宮駐屯地)への参加、 ・飛行空域等の情報交換。</li> <li>2) 関東西部地区飛行連絡会(航空自衛隊・入間基地)への参加、 ・飛行空域等の情報交換。</li> <li>3) 下総航空基地周辺飛行安全会同(海上自衛隊・下総基地)への参加、 ・飛行空域等の情報交換。</li> <li>4) 渡良瀬アクリメーション会議への参加 ・板倉滑空場の現況の発表。</li> <li>5) 渡良瀬スカイスポーツ協議会の月 1 回の連絡会議への参加 ・他のスポーツ団体との情報交換。</li> </ol>

## E. 会員活動

### 1. 発航回数(平成24年4月～平成25年3月)





総曳航回数 1566 回(曳航機内訳 ハスキー 1525 回、デモナ 41 回)、デモナ発航回数 91 回、  
自力発航動力滑空機(SL)発航回数 56 回 \*日本でも有数規模のクラブ運営を実施。

### 2. 総会員数 155名 内訳 : 正会員 109名、賛助会員 46名。(平成24年3月31日現在)

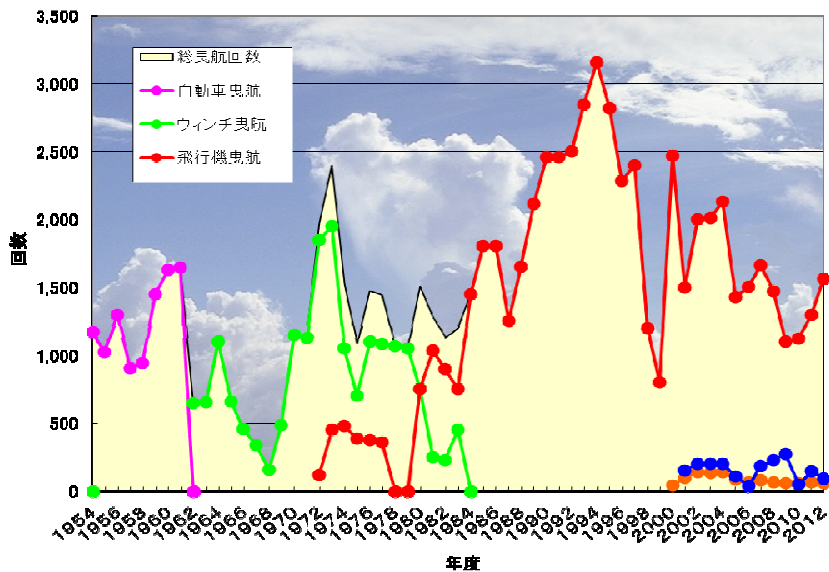
### 3. 操縦技能証明取得 : 自家用操縦士(滑空機上級)実地試験合格 1名(平成24年7月29日)

### 4. 整備士資格取得 : 二等航空運航整備士実地試験合格 3名 二等航空整備士実地試験合格(滑空機上級)2名 二等航空整備士実地試験合格(滑空機動力)2名

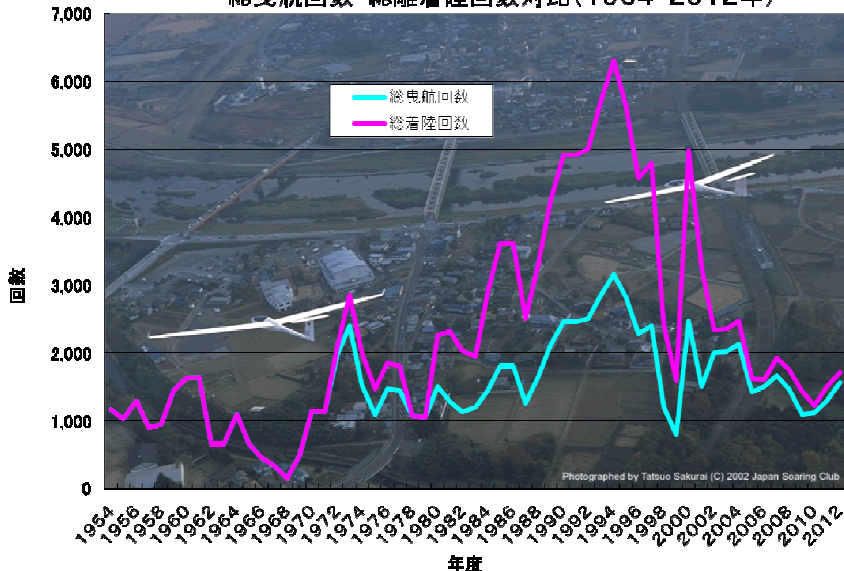
### 5. その他の活動


	<p>「滑空機曲技世界選手権」等に会員が日本代表として参加</p> <p>期 間 :平成 24 年 8 月 9 日～8 月 18 日 概 要 :スロバキア、ドブニツァにおいて開催された第 15 回滑空機曲技世界選手権に、会員の梶智就氏がソロフォックスで参戦し、27 人中 10 位の好成績をおさめた。</p> <p>期 間 :平成 24 年 7 月 15 日～19 日 概 要 :ポーランド、イレニヤグラで開催されたポーランドナショナル(滑空機曲技)のアンリミテッドクラスに会員の梶智就氏が、アドバンスドクラスに会員の酒井隆氏が参加した。</p>
	<p>「滑空機曲技世界選手権」に、会員が FAI 正ジャッジとして参加</p> <p>期 間 :平成 24 年 8 月 8 日～19 日 概 要 :スロバキアで開催された滑空機曲技世界選手権(アドバンスド、アンリミテッド)に会員の鐘尾みや子氏が、FAI インターナショナルジャッジとして日本人で初めて正ジャッジを務めた。</p>
	<p>「空の日 航空関係者表彰」</p> <p>日 時 :平成 24 年 9 月 20 日 概 要 :滑空スポーツに功績のあった当クラブ員の吉瀬はるか氏、鐘尾みや子氏に FAI エア・スポーツ・メダルが授与された。</p>
	<p>「全日本学生グライダー競技選手権大会」で会員が優勝</p> <p>期 間 :平成 25 年 3 月 3 日～10 日 概 要 :妻沼滑空場で開催された第 53 回「全日本学生グライダー競技選手権大会」に、東大航空部から参加した当クラブ員の剣田将孝氏が個人総合で優勝した。</p>

(公益社団法人)日本グライダークラブ 統計資料



総曳航回数・総離着陸回数対比(1954-2012年)





**公益社団法人日本グライダークラブ**  
URL : [www.glider.jp](http://www.glider.jp)

◆板倉滑空場  
住所：〒374-0101  
群馬県邑楽郡板倉町除川 1286  
TEL/FAX : 0276-77-0830

◆東京事務所  
住所：〒105-0004  
東京都港区新橋 1-18-1  
(航空会館 9F)  
TEL/FAX : 03-3591-7728  
E-mail: [shinbashi-office@glider.jp](mailto:shinbashi-office@glider.jp)

板倉滑空場 累積着陸回数(1954-2012年)

